

# 『老乞大』清代改訂本における人称代名詞について

萩原 亮

## 要旨

《老乞大》と《朴通事》は朝鮮半島長期通行の漢語課本。《老乞大》曾进行过两次修订，一般来说，第一次修订（15 世纪末）之前的版本称为“古本”。而经过第一次修订的版本称为“今本”，经过第二次修订（18 世纪后期）的版本称为“清代修订本”。本文着眼于“古本”中的第一人称代词“俺”和第二人称代词“恁”在“今本”中修改为“我”和“你”，而在“清代修订本”中修改为“我们”和“你们”的现象，试图厘清从“今本”到“清代修订本”的修订方针。本文发现在“清代修订本”中有关人称代词的单数/复数的修订方针为依据该书中汉语部分的上下文进行考虑。

## 1. はじめに

『老乞大』と『朴通事』は朝鮮半島における通訳養成機関であった通文館及び司訳院<sup>1</sup>において編纂され、高麗（918-1392）、朝鮮（1392-1910）の二王朝にわたって使用されてきた中国語会話教科書である。両書は大幅な改訂が二度行われており、第一次改訂が 15 世紀末<sup>2</sup>、第二次改訂が 18 世紀後半に行われたとされる。一般に第一次改訂以前のものを「旧本（古本）」、第一次改訂によるものを「新本（今本）」、第二次改訂によるものを「清代改訂本」と呼ぶ。竹越（2009）に基づいて『老乞大』の現存するテキストを列举すると、旧本系統に属するものがいわゆる『舊本老乞大』（14 世紀末）であり、新本系統に属するものが漢字本『老乞大』（1483 年頃）とその諺解本である『翻譯老乞大』（1517 年以前）、『老乞大諺解』（1670 年）、平安監宮重刊本『老乞大諺解』（1745）、清代改訂本系統に属するものが『老乞大新釋』（1761 年）、『重刊老乞大』（1795 年）とその諺解本である『老乞大新釋諺解』（1763 年）、『重刊老乞大諺解』（1795 年以降）、以上の 9 種となる。これら諸本は、音韻、語彙・語法の両面において 14 世紀か

<sup>1</sup> 高麗王朝の 1276 年に通文館が設置され、その後朝鮮王朝の 1393 年に司訳院へと改称された。

<sup>2</sup> 『成宗実録』十一年十月乙丑條に「上曰其速刊行、且選其能漢語者刪改『老乞大』、『朴通事』」とあり、また同十四年九月庚戌條に「先是命迎接都監郎聽房貴和、從頭目葛貴校正『老乞大』、『朴通事』」とあるため、成宗 11 年～14 年（1480～1483）の間に第一次改訂が行われたとされる。

ら18世紀にわたる中国語北方方言の変遷を比較できる極めて重要な資料である。

1998年に韓国の大邱で第一次改訂以前と思われる『老乞大』のテキストが発見されたことにより、旧本系統から新本系統に至る言語的特徴の変遷に大きな関心が寄せられるようになった<sup>3</sup>。その後、現在に至るまで旧本と新本の語彙・語法を比較した研究が多く行われている。しかしながら、旧本の発見によって新本における改訂の状況が明らかになったことにより、新本から清代改訂本に至る変遷にも新たな光が当たる可能性がある。そこで、本稿では人称代名詞の問題を手掛かりに、新本から清代改訂本に至る第二次改訂において、どのような意図がはたらいていたかを考察する。

以下では、旧本の資料として『舊本老乞大』（以下『舊本』）を、新本の資料として『翻譯老乞大』（以下『翻譯』）を、清代改訂本の資料として『老乞大新釋』（以下『新釋』）及び『重刊老乞大』（以下『重刊』）を用い、四種の版本を比較することにより人称代名詞の変遷について考察する。テキストとしては、竹越孝氏の作成になる「老乞大四種対照テキスト（電子版）」を使用した<sup>4</sup>。

## 2. 先行研究

『老乞大』諸本における人称代名詞については、『舊本』の発見以降、特に一人称代名詞の“俺”と二人称代名詞の“恁”<sup>5</sup>という語に注目が集まり、『舊本』に用いられるこれらの語が第一次改訂においてどう改められたか、という問題に焦点が当てられてきた。

小川（1939）、太田（1958）等によると、“俺”と“您”はいずれも宋代から見られる語であり、それぞれ“我”と“你”に複数語尾“門”あるいは“懣”が接続した形式が来源であるとされる。これらはいずれも本来複数を表す語であるが、単数を表す例も見られるとされる<sup>6</sup>。

栗林（2003）は、『元朝秘史』<sup>7</sup>におけるモンゴル語の一人称代名詞複数除外形 **ba** とその変化形、二人称代名詞複数形 **ta** とその変化形が中国語の傍訳<sup>8</sup>にお

<sup>3</sup> 金・玄・佐藤（2002）は『舊本老乞大』に訳注を施した上で、『翻譯老乞大』を対照させたものであり、解説においては旧本発見の経緯や、及びその文献学的な価値について詳細に述べている。

<sup>4</sup> 『老乞大』の四種のテキストを対照させた試みとしては李泰洙（2003）などがある。

<sup>5</sup> “您”に相当する字であるが、『舊本』では一貫して“恁”に作る。

<sup>6</sup> 太田氏は“俺”が影母であるのに対し、“我”は疑母であるため、声母の区別があったと思われる宋代にこのような変化が起こったとは考えにくいとしている。

<sup>7</sup> 『元朝秘史』はモンゴル語で書かれた歴史書であり、原本は恐らくウイグル式モンゴル文字で書かれていたと思われる。現存するのは明の洪武年間（1368～1398）に成立した漢字音写本である。

<sup>8</sup> 『元朝秘史』に付された中国語訳は二種類あり、漢字音写モンゴル語の単語ごとに付された逐

いてそれぞれ“俺”と“恁”に規則的に対応することを挙げ、『元朝秘史』における対応が同時代資料である『舊本』にも当てはまり、金・玄・佐藤（2002）が“俺”、“恁”に単複の区別がないとしたのは問題であるとした。これに対する反論として書かれた佐藤（2003）は『元朝秘史』の中国語傍訳はあくまでモンゴル語に対する解釈にすぎず、それがそのまま当時の中国語を反映しているとは限らないため、傍訳だけではなく、総訳における状況も調査すべきであることを述べるとともに、栗林氏が挙げる『舊本』の単複の例には必ずしもそう解釈できないものもあるとしている。

李泰洙（2003）は、『舊本』に見られる“俺”、“恁”は本来複数を意味する語であるが、当時はいずれも単数としても用いられることがあったと述べる。また、新本の系統においては“俺”、“恁”がそれぞれ“我”、“你”へと改訂されているが、これらも単複どちらにも用いられているとしている。遠藤（2005）はこの説に対してより詳細な根拠を与えるとともに、本来複数であった人称代名詞が単数をも表しうることについて、方言などのデータを基に考察を加えている。

遠藤（2005）の調査に基づいて、『老乞大』四種における人称代名詞複数の変遷を示すと以下の通りである<sup>9</sup>。

表1. 『老乞大』四種における人称代名詞複数の変遷（遠藤2005より抜粋）

	旧本	新本	清代改訂本		用例数
	『舊本』	『翻譯』	『新釋』	『重刊』	
一人称	俺	我	我	我	138
			我們	我們	25
	俺每	我們	我們	我們	1
	咱	咱	咱們	咱們	3
	咱每	咱們	咱們	咱們	74
二人称	恁	你	你	你	95
			你們	你們	12
三人称	他每	他們	他們	他們	5

上の表に基づいて、旧本、新本、清代改訂本の形式を比べると、複数を表す接

語訳を「傍訳」と呼び、節ごとの内容をまとめた大意訳を「総訳」と呼ぶ。

<sup>9</sup> 遠藤氏は「小人→我們」などの変遷も取り上げているが、それらのごく少ない変遷のタイプは除き、本稿に関係するもののみを取り上げる。

尾辞がある“俺毎”，“咱毎”，“他毎”などについては「俺毎→我們→我們」，「咱毎→咱們→咱們」や「他毎→他們→他們」のような一般的な変遷が見られ，本来複数を表していたと考えられる“咱”についても「咱→咱們」という変遷が見られる一方で，“俺”に関しては，「俺→我→我」と「俺→我→我們」，“恁”に関しては「恁→你→你」と「恁→你→你們」というそれぞれ2通りの変遷が見られる。中でも注目すべきなのは，「俺→我→我們」と「恁→你→你們」というタイプの変遷であり，一見すると『翻譯』で単数に改訂されているものが，『新釋』及び『重刊』では再び複수에改訂されているかのような印象を与え，“毎”，“們”などの複数を明示する接尾辞が付されている他のタイプと比較するとその特異さが際立っている。李泰洙氏と遠藤氏はこの変遷について言及しているものの，新本から清代改訂本に至る変遷に関する詳しい事例の検討はまだ行われていない。本稿では清代改訂本の編者たちが人称代名詞の単数と複数についてどのように考え，どのように改訂を施したかについて論じたい。

### 3. 一人称代名詞について

#### 3.1 改訂の状況

まず一人称代名詞の変遷について考察する。『舊本』→『翻譯』→『新釋』→『重刊』の順に示した場合，上の表によれば「俺→我→我→我」のタイプが138例，「俺→我→我們→我們」のタイプが23例見られる<sup>10</sup>。後者の例を挙げると次の通りである。以下において『舊本』は【舊】，『翻譯』は【翻】，『新釋』は【新】，『重刊』は【重】で示し，例文後の括弧内には話数，葉，表裏，行を示す。当該の人称代名詞には下線を付し，『舊本』の例文に対する日本語訳は金・玄・佐藤（2002）に従う。

- (1) 【舊】 那般呵，俺明日早則放心的去也。（19/8a3-4）  
「それなら，明日の朝は安心して出発できるってもんだ。」  
【翻】 這們時，我明日早只放心的去也。（19/上 26b3-5）  
【新】 這麼我們明日一早好放心的去了。（19/9a2-3）  
【重】 這麼我們明日一早好放心去了。（19/8b4-5）
- (2) 【舊】 俺則是趕著這幾箇馬，又無甚麼錢本，那廝每待要俺甚麼？  
（19/8a6-8）  
「おいらたちこの馬をつれているだけで，手元の金があるわけじゃなし，やつらがおいらたちをどうするってんだい？」

<sup>10</sup> 遠藤（2005）では，「俺→我→我們→我們」という変遷は25例とする。

【翻】我只是趕着這幾箇馬，又沒甚麼錢本，那廝們待要我甚麼？（19/上 27a5-8）

【新】我們只趕着這幾箇馬，又沒甚麼銀錢帶來的，就逢見了他不相干，那賊們想要我們甚麼？（19/9a6-8）

【重】我們只趕這幾箇馬，又沒甚麼銀錢帶來的，就逢見了他也不相干，那賊們要我們做甚麼？（19/8b8-9）

- (3) 【舊】主人家哥休恠，俺去也。（29/11a9-10）

「主人，悪しからずな，わしらはもう出發するぞ。」

【翻】主人家哥，休恠，我去也。（29/上 38b2-3）

【新】主人家別恠，我們去了。（29/12b7）

【重】主人家別恠，我們去了。（29/12a6）

- (4) 【舊】主人家哥，俺幾箇行路的人，這早晚不曾喫早飯，前頭又無甚店子。（31/11b7-8）

「ご主人，わしらは旅の一行のものでございますが，こんな時分になってもまだ朝飯にありつけません。この先旅籠もございませんし・・・」

【翻】主人家哥，我幾箇行路的人，這早晚不曾喫早飯，前頭又沒甚麼店子。（31/上 39b9-40a4）

【新】主人家，我們是行路的人，這時候不曾吃早飯，前面又沒店。（31/13a6-7）

【重】主人家，我們是行路的人，這時候不曾喫早飯，前面又沒店。（30/12b5-6）

- (5) 【舊】俺是行路的客人，更待做甚客？（32/12b1-2）

「わしらは道行く旅人でございます，遠慮などいたしません。」

【翻】我是行路的客人，又肯做甚麼客？（32/上 42b5-7）

【新】我們都是行路的客人，肯做甚麼客呢？（32/14a6-7）

【重】我們都是行路的客人，肯做甚麼客？（32/13b4-5）

- (6) 【舊】俺好生飽了。（32/12b2）

「充分いただきました。」

【翻】我好生飽了。（32/上 42b8-9）

【新】我們吃得大飽了。（32/14a7-8）

【重】我們喫得大飽了。（32/13b5）

- (7) 【舊】俺正飢渴時，主人家這般與茶飯喫，怎生忘的恁？（33/12b7-8）

「ちょうどお腹がすいて喉が乾いていたとき，ご主人がこうして食事をくださったんで，どうしてあなたを忘れられましょう。」

【翻】我正飢渴時，主人家，這般與茶飯喫，怎生忘的你？（33/上

43b7-44a1)

【新】我們正在飢渴時候，主人家，就這般給茶飯吃，怎麼能忘你的情呢？(33/14b3-4)

【重】我們正在飢渴時候，主人家，就這般給茶飯喫，怎能忘你的情？(33/13b10-14a1)

- (8) 【舊】兀那人家，俺恰纔糴米去來，不肯糴與，他每做下的見飯與俺喫了，更與你將來。(35/13a4-5)

「ほれ、あの家にさっきお米を分けてもらいに行ったが、お米は分けてくれようとせず、炊いてあったご飯をわしらに食べさせてくれた。そのうえおまえさんにももってきてくれたぞ。」

【翻】那箇人家，我恰纔糴米去來，不肯糴與我，他們做下見成的飯，與我喫了，又與你，將來。(35/上 45a3-8)

【新】那人家，我纔剛去要糴米，他不肯糴與我，他們做下現成的飯，教我們吃了，又教吃你帶來。(35/15a1-2)

【重】那人家，我纔剛去要糴米，他不肯糴與我，他們做下現成的飯，教我們喫了，又教給你喫帶來。(35/14a7-9)

- (9) 【舊】俺是客人，今日晚也，恁房子裏覓箇宿處。(37/13b4-5)

「わしら旅の者だが、今日は遅くなったもので、お宅に宿を頼みたいんだが。」

【翻】我是客人，今日晚了，你房子裏，尋箇宿處。(37/上 47a2-4)

【新】我們是行路的客人，今日天晚了，要借你房子，做箇宿處。(37/15b3-4)

【重】我們是行路的客人，今日天晚了，要借你房子，做箇宿處。(37/14b9-10)

- (10) 【舊】那般者，俺則車房裏宿。(40/15a4)

「それじゃあ、車置き場に泊めてもらいますよ。」

【翻】這般時，我只在車房裏宿。(40/上 52a8-9)

【新】這般我們將就在這車房裏睡覺罷。(40/17a6-7)

【重】這般我們將就在這車房裏睡覺罷。(40/16b2)

- (11) 【舊】這早晚黑夜，俺其實飢也，又有幾箇馬。(41/15a5-6)

「こんなに暗くなっちゃって、実は腹がすいておりますし、それに馬も何頭かおりますんで。」

【翻】這早晚黑夜，我其實肚裏飢了，又有幾箇馬。(41/上 52b4-6)

【新】如今已是黑夜了，我們實在肚裏餓了，又有幾箇馬要喂。(41/17a8-9)

【重】如今已是黑夜，我們實在肚裏餓了，又有幾箇馬要喂。(41/16b3-4)

- (12) 【舊】俺這裏今年夏裏天旱了，秋裏水澇了，田禾不收的上頭，俺也旋糶旋喫裏。(41/15a7-8)  
 「この辺りじゃ今年の夏は日照り，秋は洪水で，作物を収穫できなかったんで，わしらもそのつど買ってきて食いつないでいるような始末だ。」  
 【翻】我這裏今年夏裏天旱了，秋裏水澇了，田禾不收的，因此上，我也旋糶旋喫裏。(41/上 53a2-6)  
 【新】我這裏今年夏天大旱，到秋來又水澇了，莊家田禾沒有收成，故此，我們都是現糶現吃。(41/17b1-3)  
 【重】我這裏今年夏天大旱，到秋來又水澇了，田禾不收，故此，我們都是旋糶旋喫。(41/16b6-7)
- (13) 【舊】俺從早起喫了些飯，到這早晚不會喫飯裏。(41/15a9-10)  
 「朝少しばかり飯を食ってから，今時分まで食っておらなので，・・・」  
 【翻】我從早起喫了些飯，到這早晚，不會喫飯裏。(41/上 53a8-53b1)  
 【新】我們從早起，吃了些飯，到這時候不會吃些甚麼。(41/17b3-4)  
 【重】我們早喫些飯，到這時候不會喫些甚麼。(41/16b8-9)
- (14) 【舊】俺車房裏去，無甚明火，教小孩兒將些箇燈來。(43/16a6)  
 「わしら車置き場へ行くのに，なんの灯りもない，お子さんに灯りを持ってこさせてくださいな。」  
 【翻】我車房裏去，沒甚麼火，教小孩兒，拿箇燈來。(43/上 56b2-4)  
 【新】我們車房裏去，沒有火怎麼好，教小孩子，拿箇燈來罷。(43/18b2-3)  
 【重】我們車房裏去，沒有火怎麼好，教小孩子，拿箇燈來罷。(43/17b6-7)
- (15) 【舊】主人家哥，休恠，俺去也，這裏定害了恁。(45/16b10)  
 「ご主人，悪く思わんでくださいよ。わしらは出発しますが，こちらじゃあ面倒をかけました。」  
 【翻】主人家哥，休恠，我去也，這裏定害了。(45/上 59a3-5)  
 【新】主人哥，我們去了，在這裏破費你了。(45/19a8)  
 【重】主人哥，我們去了，在這裏破費你了。(45/18b1-2)
- (16) 【舊】你這店裏下的俺麼？(52/19a6)  
 「あんたとこの宿は泊まれるかね？」  
 【翻】你這店裏，下的我麼？(52/上 67a3-4)  
 【新】你這店裏，可下我們麼？(52/21b7)  
 【重】你這店裏，可下我們麼？(52/20b9)
- (17) 【舊】俺通四箇人，十箇馬。(52/19a7)  
 「全部で四人，馬は十頭だ。」

- 【翻】我共通四箇人，十箇馬。(52/上 67a6-7)  
 【新】我們四箇人十匹馬。(52/21b8)  
 【重】我們四箇人十匹馬。(52/20b10)
- (18) 【舊】俺纔到這裏，恰待尋恁去來，你却來了。(53/19b5)  
 「着いたばかりさ。ちょうど探しに行こうとしてたら，おまえが来たんだ。」  
 【翻】我纔到這裏，待要尋你去來，你却來了。(53/上 68b4-6)  
 【新】我們纔到這裏，剛要尋你去，你却來了。(53/22a7-8)  
 【重】我們纔到這裏，待要尋你去，你却來了。(53/21a9)
- (19) 【舊】俺則夜來到。(58/21b5)  
 「昨日着いたばかりさ。」  
 【翻】我只夜來到。(58/下 5b8-9)  
 【新】我們昨兒箇來的。(58/24b5)  
 【重】我們昨兒箇來的。(58/23b4)
- (20) 【舊】怎道，恁這等慣做買賣的人，俺一等不慣的人根底，多有過瞞有。(101/37b4-5)  
 「なんでだい？あんたたちみたいに商売に慣れている人は，こっちみたいに慣れてない者をよくだますんだ。」  
 【翻】怎麼說，你這們慣做買賣的人，我一等不慣的人根前，多有欺瞞。(102/下 64b9-65a3)  
 【新】怎麼說，你們是慣做買賣的人，我們却不慣欺騙人。(106/43b1-2)  
 【重】怎麼說，你們是慣做買賣的人，似我們不慣的根前，多有欺瞞。(106/41b1-2)
- (21) 【舊】俺行貨都賣了也。(102/37b10)  
 「こっこの品もみんな売れた。」  
 【翻】我貨物都賣了。(103/下 66a2-3)  
 【新】我們貨物都賣了。(107/43b8)  
 【重】我們貨物都賣了。(107/41b8)
- (22) 【舊】俺揀箇好日頭迴去，我一就待算一卦去。(105/39a7-8)  
 「さあ，好い日を選んで帰るぞ。ついでにちょっと運勢も占ってもらおう。」  
 【翻】我揀箇好日頭迴去，我一發待算一卦去。(106/下 70b2-4)  
 【新】我們要揀箇好日子迴去，就去算一卦如何？(110/45a5-6)  
 【重】我們要揀箇好日子迴去，就去問一卦如何？(110/43a4-5)



### 3.2. 朝鮮語訳との関係

清代改訂本の編者たちは、どのような情報に基づいて上に示したような改訂を行ったのであろうか。

まず、彼らが旧本のテキストを参照し得たという可能性は考えづらい。新本における“我”は、旧本における“俺”と“我”という2つの来源を持つが、“俺”に由来する“我”を更に清代改訂本において“我”と“我們”に訳し分けるという改訂は不自然だからである。

次に想定されるのは諺解本の朝鮮語訳を参考にした可能性であり、この点について考えてみよう。これらの例における朝鮮語訳で“我”に対応している語を調べてみると以下の通りである。朝鮮語訳は三種の諺解本、即ち『翻譯』、『老乞大諺解』及び平安監營重刊本『老乞大諺解』を用いる。括弧内には出現箇所を、巻、葉数、表裏、行の順で記す。

表2. 新本における“我”と朝鮮語訳の対応

	『翻譯老乞大』	『老乞大諺解』	平安監營重刊本『老乞大諺解』
(1)	우리 (上 26b5)	우리 (上 24a3)	우리 (上 24a3)
(2)	내 (上 27a6)	내 (上 24b3)	내 (上 24b3)
(3)	우리 (上 38b4)	우리 (上 34b9)	우리 (上 34b9)
(4)	우리 (上 40a1)	우리 (上 36a4)	우리 (上 36a4)
(5)	우리 (上 42b6)	우리 (上 38b3)	우리 (上 38b3)
(6)	우리 (上 42b10)	우리 (上 38b6)	우리 (上 38b6)
(7)	우리 (上 43b9)	우리 (上 39b3)	우리 (上 39b3)
(8)	우리 (上 45a7)	우리 (上 40b9)	우리 (上 40b9)
(9)	내 (上 47a2)	나 (上 42a10)	나 (上 42a10)
(10)	내 (上 52b1)	내 (上 47a7)	내 (上 47a9)
(11)	내 (上 52b6)	내 (上 47b3)	내 (上 47b4)
(12)	우리 (上 53a6)	우리 (上 47b10)	우리 (上 47b10)
(13)	내 (上 53a10)	내 (上 48a5)	내 (上 48a5)
(14)	내 (上 56b3)	내 (上 51a2)	내 (上 51a2)
(15)	우리 (上 59a5)	우리 (上 53a9)	우리 (上 53a9)
(16)	우리 (上 67a4)	우리 (上 60b3)	우리 (上 60b4)
(17)	우리 (上 67a6)	우리 (上 60b5)	우리 (上 60b6)
(18)	우리 (上 68b4)	우리 (上 62a1)	우리 (上 62a1)

(19)	내 (下 5b9)	내 (下 5a8)	내 (下 5a9)
(20)	우리 (下 65a3)	우리 (下 58b5)	우리 (下 58b4)
(21)	우리 (下 66a3)	우리 (下 59b4)	우리 (下 59b3)
(22)	우리 (下 70b3)	우리 (下 63b5)	우리 (下 63b4)

上の表を見ると、三種の諺解本において“我”に対応する語は大部分が一人称複数を表す“우리 (uri<sup>11</sup>)”となっているが、(2), (9), (10), (11), (13), (14)では一人称単数の主格形“내 (nae)”及びその独立系“나 (na)”が対応している。このように、朝鮮語訳が一人称複数の形ではないにも関わらず“我”を“我們”としている部分が存在することから、清代改訂本の編者たちが新本における朝鮮語訳を参照して機械的に改訂した可能性は考えられない。

### 3.3. 文脈との関係

では、彼らは朝鮮語訳以外のどのような情報に基づいていたのであろうか。その候補として考えられるのは、前後の中国語の文脈である。中国語部分における上の例の前後を見てみると、発話者が複数であることを示唆する語もしくは表現を含む文が多いことに気づく。以上の23例から『翻譯』における複数を示唆する部分を挙げてみると次の通りである。引用の後に上の例の何文前もしくは何文後に当該の文が現れるかを記し、下に金・玄・佐藤(2002)による日本語訳を示すとともに、同書に従って発話者を付す。

- (1') 那般着, 客人們歇息。(19/上 25b9-26a1) 7文前  
「そんなら、お客さん方、お休みなさいませ。」(宿の主人)
- (2') 同上 13文前
- (3') 火伴們起來。(29/上 38a5) 4文前  
「みんな起きろよ。」(漢人)
- (4') 我的飯熟了, 客人們喫了過去。(31/上 40a7-9) 3文前  
「ちょうど飯が炊けたところだ、旅のお方、食べてお行きなさい。」(宿の主人)
- (5') 你外頭還有火伴麼? (32/上 42a1-2) 9文前  
「あんた方、外にまだ連れがいるのかね?」(宿の主人)
- (6') 同上 11文前
- (7') 客人們, 有一箇看着馬的, 不會來喫飯。(33/上 43a1-3) 8文前

<sup>11</sup> ハングルのローマ字転写は河野六郎式による。河野(1947)参照。

「客人のうちお一人が馬の番をしていて、ご飯を食べに来ておられない。」(宿の主人)

- (8') 比及馳了時，他也喫了飯也，咱們便行。(35/上 45b3-5) 3 文前  
「荷造りがすむ頃にゃあ、あいつも飯を食いおわってるだろうから、そしたら出発しようぜ。」(漢人)
- (9') 你這般大人家，量我兩三箇客人，却怎麼説下不得？(37/上 47a7-9) 2 文前  
「お宅のようにこんな大きな家で、たかがわしら二、三人の旅人くらい泊められないってことはないでしょう。」(漢人)
- (10') 這幾箇火伴，他是高麗人，從高麗地面裏來。(40/上 51a2-5) 9 文前  
「この連れは高麗の人で、高麗からやって来たんでさあ。」(漢人)
- (11') 同上 12 文前
- (12') 同上 14 文前
- (13') 同上 16 文前
- (14') 客人們，説甚麼話？(43/上 55b9-56a1) 6 文前  
「旅のお人、なんてことを言うんだね。」(宿の主人)
- (15') 咱們趕將馬去來，到下處，收拾了行李時，恰明也。(45/上 58a9-58b3) 8 文前  
「さあ馬を逐って行こう。泊まってるところに着いて、荷物をまとめりゃあ、ちょうど夜が明けるだろうよ。」(漢人)
- (16') 店主人家哥，後頭還有幾箇火伴，趕着幾匹馬來也。(52/上 66b9-67a3) 1 文前  
「ご主人、あとからまだ二人連れが馬を逐ってくるんだが、(後略)」(漢人)
- (17') 同上 3 文前
- (18') 你兩箇到這裏多少時？(53/上 68b3) 1 文前  
「二人ともここに着いてどれくらいになる？」(高麗人)
- (19') 你有幾箇火伴？(58/下 5a9-5b1) 6 文前  
「おまえ連れは何人だい？」(高麗人の友人・李氏)
- (20') 咱們人蔘價錢，也都收拾了。(102/下 65a9-65b1) 4 文後  
「人蔘の代金もみなもらったし、これで品物はぜんぶさばいたぞ。」(高麗人)
- (21') 咱們買些甚麼迴貨去時好？(103/下 65b3-4) 5 文前  
「どんな商品を買って帰ったらよいだろう？」(高麗人)

- (22') 咱們那裏算去來。(106/下 70b6-7) 2 文後  
「そこへ占いをみてもらいに行こう。」(高麗人)

上の例を見て分かるように、複数を示唆する表現は似通っている:“咱們”が (8'), (15'), (20'), (21'), (22') の計 5 例;“客人們”が (1'), (2'), (4'), (7'), (9'), (14') の計 6 例;“火伴”が (3'), (5'), (6'), (10'), (11'), (12'), (13'), (16'), (17'), (19') の計 10 例;“你兩箇”が (18') の 1 例である。なお, (11'), (12'), (13') は複数を示唆する部分とやや距離があるが, (10) から続く同じ場面に属するため同様の状況を推定することはごく自然であったと考えられる。

以上のうち,“咱們”は,当該の発話をした人物と同じ人物による発話に含まれ,『翻譯』において同一人物が自称に“我”と“咱們”の両方を用いていることになる。“客人們”は,宿の主人から主人公である高麗人に向けた発話の中に見られる。“火伴”は主人公一行が自分たちの仲間を指す場合もあれば,宿の主人が主人公の仲間を指す場合の両方が確認できる。

このような状況を踏まえると,上に見たような複数を示唆する表現,即ち中国語部分の文脈を根拠に“我”を含む文の発話者が複数であると判断することはそれほど困難ではないため,『翻譯』において見かけ上単数である“我”を“我們”に改訂することが妥当であると判断された,ということが推定できる。

#### 4. 二人称代名詞について

##### 4.1. 改訂の状況

次に二人称代名詞について同様に考察してみよう。一人称代名詞と同様の順で示すと,「恁→你→你→你」のタイプが 95 例,「恁→你→你們→你們」のタイプが 13 例である<sup>12</sup>。後者についてその例を挙げると以下の通り。

- (23) 【舊】恁既是姑舅兩姨弟兄, 怎麼沿路穢語不迴避? (12/5a9-10)  
「おまえさんたち, いとお同士なのに, どうして道中下品な言葉を平気で使うんだい?」  
【翻】你既是姑舅兩姨弟兄, 怎麼沿路穢語不迴避? (12/上 16b5-7)  
【新】你們既是姑舅兩姨弟兄, 怎麼沿路上多有戲言, 全不避諱呢? (12/5b10-6a2)  
【重】你們既是姑舅兩姨弟兄, 怎麼沿路上多有戲言? (12/5b5-6)
- (24) 【舊】席子無, 兀的三箇藁薦與恁鋪。(18/7b8-9)

<sup>12</sup> 遠藤 (2005) では,「恁→你→你們→你們」という変遷は 12 例とする。

「莫蒞はありませんから、ほら藁の敷物を三枚敷いてあげましょう。」

【翻】席子沒，這的三箇藁薦與你鋪。(18/上 25b5-6)

【新】席子沒有，這三領草薦與你們鋪罷。(18/8b6-7)

【重】席子沒有，這三領草薦與你們鋪罷。(18/8a8-9)

- (25) 【舊】恁休恠，好去者。(29/11a10)

「お愛想なしでございました，どうかお気をつけになって。」

【翻】你休恠，好去着。(29/上 38b4-5)

【新】你們別恠好去罷。(29/12b7-8)

【重】你們別恠好去罷。(29/12a6)

- (26) 【舊】這般時，敢少了恁飯。(31/11b10)

「それじゃあ，お宅のご飯が足りなくなるでしょう。」

【翻】這般時，敢少了你飯。(31/上 40a9-40b1)

【新】這般説，但恐怕小了你們吃的飯。(31/13a10-13b1)

【重】這般説，只怕小了你們喫的。(31/12b9)

- (27) 【舊】偏俺不出外，出外時，也和恁一般。(31/12a6)

「たまたまわしが旅に出ていないからのことで，もし旅に出ておればやっぱりあんた方と同じだよ。」

【翻】偏我不出外，出外時，也和你一般。(31/上 41b4-6)

【新】偏我不出外，若出外時候，也與你們一般的。(31/13b10)

【重】偏我不出外，若出外時候，也與你們一般。(31/13a8)

- (28) 【舊】恁外頭更有伴當麼？(32/12a7-8)

「あんた方，外にまだ連れがいるのかね？」

【翻】你外頭還有火伴麼？(32/上 42a1-2)

【新】你們外頭還有火伴麼？(32/14a2)

【重】你們外頭還有火伴麼？(32/13a9-10)

- (29) 【舊】由他，恁都喫了者。(32/12a10)

「かまわんから，あんたたち全部食べてしまいなさい。」

【翻】由他，你都喫了着。(32/上 42b1-2)

【新】且隨你們吃着。(32/14a5)

【重】且隨你們喫着。(32/13b2-3)

- (30) 【舊】恁休做客，慢慢喫的飽者。(32/12b1)

「遠慮せずにくつくりとたらふくお食べなさい。」

【翻】你休做客，慢慢喫的飽着。(32/上 42b4-5)

【新】你們休做客，慢慢的往飽裏吃罷。(32/14a6)

【重】你們休做客，慢慢的飽喫罷。(32/13b3-4)

- (31) 【舊】恁在東京城裏那些箇住？(38/14a1-2)  
「あんた，東京の町のどのあたりに住んでるんかね？」  
【翻】你在遼東城裏那些箇住？(38/上 48a8-9)  
【新】你們在遼東城裏那裏住？(38/16a1-2)  
【重】你們在遼東城裏那裏住？(38/15a8)
- (32) 【舊】我著孩兒每做將粥來與恁喫。(42/15b10-16a1)  
「わしは子供たちに言つて，粥を作つて持つてこさせるからお食べなさい。」  
【翻】我着孩兒們，做將粥來與你喫。(42/上 55b1-2)  
【新】我教孩子們，做些粥來與你們吃罷。(42/18a6)  
【重】我教孩子們，做些粥來與你們喫罷。(42/17a10)
- (33) 【舊】我和一箇伴當先去，尋箇好店安下處，却來迎恁。(51/19a1-2)  
「おいらともうひとりで先に行つて，いい旅籠をさがして宿をとつたら，おまえさんたちを迎えにもどつてくるよ。」  
【翻】我和一箇火伴先去，尋箇好店安下着，却來迎你。(51/上 66a7-9)  
【新】我同一箇火伴先去，尋箇好店占住下處，再來迎接你們如何？(51/21b1-2)  
【重】我同一箇火伴先去，尋箇好店占住下處，再來迎接你們如何？(51/20b3-4)
- (34) 【舊】更不時，恁都則這裏有者。(68/25a6)  
「さもなくんば，あんたたちはみんなここにいなさい。」  
【翻】更不時，你都只這裏等候着。(68/下 18b5-6)  
【新】不要那麼的呢，你們都在這裏等候着。(68/28b7-8)  
【重】不要那麼的呢，你們都在這裏等候。(68/27b4)
- (35) 【舊】怎道，恁這等慣做買賣的人，俺一等不慣的人根底，多有過瞞有。(101/37b4-5)  
「なんでだい？あんたたちみたいに商売に慣れている人は，こつちみたいに慣れてない者をよくだますんだ。」  
【翻】怎麼說，你這們慣做買賣的人，我一等不慣的人根前，多有欺瞞。(102/下 64b9-65a3)  
【新】怎麼說，你們是慣做買賣的人，我們却不慣欺騙人。(106/43b1-2)  
【重】怎麼說，你們是慣做買賣的人，似我們不慣的根前，多有欺瞞。(106/41b1-2)

#### 4.2. 朝鮮語訳との関係

二人称代名詞についても、清代改訂本の編者たちが旧本を参照したという可能性は考えにくい。新本における“你”は、旧本における“恁”と“你”という2つの来源を持つが、“恁”に由来することを知りながら“你”を清代改訂本で“你”と“你們”に訳し分けることは不自然である。

次に、これらの例における朝鮮語訳で“你”に対応している語を調べてみると以下のようなになる。

表 3. 新本における“你”と朝鮮語訳の対応

	『翻譯老乞大』	『老乞大諺解』	平安監營重刊本『老乞大諺解』
(23)	너희 (上 16b6)	너희 (上 15a5)	너희 (上 15a5)
(24)	너 (上 25b7)	너 (上 23a7)	너 (上 23a6)
(25)	네 (上 38b4)	네 (上 34b10)	네 (上 34b10)
(26)	네 (上 40b1)	네 (上 36b2)	네 (上 36b2)
(27)	너 (上 41b6)	너 (上 37b5)	너 (上 37b5)
(28)	네 (上 42a2)	네 (上 37b10)	네 (上 37b10)
(29)	너희 (上 42b2)	너희 (上 38a8)	너희 (上 38a8)
(30)	너희 (上 42b4)	너희 (上 38b1)	너희 (上 38b1)
(31)	네 (上 48a9)	네 (上 43b5)	네 (上 43b5)
(32)	너희 (上 55b3)	너희 (上 50a4)	너희 (上 50a4)
(33)	너 (上 66b1)	너 (上 59b10)	너 (上 60a1)
(34)	너희 (下 18b6)	너희 (下 17a1)	너희 (下 17a1)
(35)	네 (下 65a1)	네 (下 58b4)	네 (下 58b3)

二人称代名詞の場合、(23)、(29)、(30)、(32)、(34) に二人称複数を表す“너희 (nehyi)”が見られるが、一人称代名詞の場合と同様に、朝鮮語訳に関わらず“你”を“你們”へと改訂している部分が多いことから、清代改訂本の編者たちが新本における朝鮮語訳を参照して機械的に改訂した可能性は考えられない。

#### 4.3. 文脈との関係

二人称代名詞についても、一人称代名詞の場合と同様に、清代改訂本の編者たちは中国語の文脈を参照して改訂したと考えられる。これら例の前後を見ると発話者が複数であることを示唆する語もしくは表現が確認できるからである。

以下に『翻譯』の例で代表させ、その部分を示す。

- (23') 這三箇火伴，是你親眷那，是相合來的？(12/上 15b4-5)  
11 文前  
「この三人のお連れさんたちは、おまえさんの親戚かい、それとも他人同士で連れ立ってきたのかい？」(漢人)
- (24') 大嫂，將藁薦席子來，與客人們鋪。(18/上 25b3-5) 1 文前  
「おーい女房や、藁の敷物と莫蔭をもってきて、お客さんたちに敷いておあげ。」(宿の主人)
- (25') 火伴們起來。(29/上 38a5) 5 文前  
「みんな起きろよ。」(宿の主人)
- (26') 我的飯熟了，客人們喫了過去。(31/上 40a7-9) 1 文前  
「ちょうど飯が炊けたところだ、旅のお方、食べてお行きなさい。」(宿の主人)
- (27') 同上 14 文前
- (28') 有一箇看行李，就放馬裏。(32/上 42a3-4) 1 文後  
「ひとり荷物の番をしながら馬を放っております。」(漢人)
- (29') 同上 5 文前
- (30') 同上 8 文前
- (31') 你這般大人家，量我兩三箇客人，却怎麼說下不得？(37/上 47a7-9)  
8 文前  
「お宅のようにこんな大きな家で、たかがわしら二、三人の旅人くらい泊められないってことはないでしょう。」(漢人)
- (32') 若是似往年好收時，休說你兩三箇人，便是十數箇客人，也都與茶飯喫。(42/上 54b1-5) 7 文前  
「もし例年のように豊作だったら、あんたら二、三人と言わず、十数人の旅人にだって食事を出せるんだが。」(宿の主人)
- (33') 我兩箇後頭慢慢的趕將頭口去。(51/上 66b4-6) 3 文後  
「おれたち二人は後からゆっくり馬を逐っていくから」(金)
- (34') 你各自算將牙稅錢來。(68/下 17b9-18a1) 10 文前  
「あんたたちめいめい自分で仲介料と税金を計算してごらん。」(仲介人)

各例における複数を示唆する表現は以下の通り：“火伴”が(23'), (25')の計2例；“客人(們)”が(24'), (26'), (31')の計3例；人称代名詞+数詞が(32'),



(33'), (34') の計 3 例である。(28') には“有一箇看行李”という表現が見られる。例 (35) のみ複数を示唆する具体的な表現が見られないが、この例が属する場面では商人が複数立ち会っていることが自明であり、仲介人も含めて複数との対話であることは容易に想定される。

以上のように、二人称代名詞の場合も一人称代名詞と同様に、複数を示唆する表現、即ち中国語部分の文脈に基づいて改訂を行ったと考えられる。

## 5. まとめ

本稿では『老乞大』の新本系統から清代改訂本に至る第二次改訂においてどのような意図がはたらいていたか、旧本系統に見られる一人称代名詞“俺”及び二人称代名詞“恁”の変遷に着目して考察を行った。旧本において複数を表していたものが新本において単数に改訂され、清代改訂本に至ると再度複수에改訂されているように見える現象について、その状況を整理し分析するとともに、第二次改訂の方針について複数の可能性を挙げて論じた。

新本の“我”が清代改訂本において“我”と“我們”に、“你”が“你”と“你們”にそれぞれ改訂された現象について言うならば、清代改訂本の編者たちが旧本を参照した可能性は低く、また朝鮮語訳に基づいて機械的に改訂を行ったとも考えられない。彼らの人称代名詞の単数・複数に関する改訂の方針は、中国語部分における前後の文脈であったと思われる。このことは、改訂に関わった者の中国語と朝鮮語の能力を考える上で示唆的である。

本稿では人称代名詞の問題を取り上げて検討したが、『老乞大』における第二次改訂の方針を総合的に解明するためには、更に幅広い調査が必要と思われる。

## 参考文献

< 日文 >

太田辰夫 (1958) 『中国語歴史文法』, 東京: 江南書院.

小川環樹 (1939) 「代名詞俗語の沿革」, 『支那學』 9 (4), pp.699-724 ; (1977) 『中國語學研究』, pp.165-184, 東京: 創文社.

金文京・玄幸子・佐藤晴彦 (2002) 『老乞大 朝鮮中世の中国語会話読本』, 東洋文庫 699, 東京: 平凡社.

栗林均 (2003) 『『元朝秘史』におけるモンゴル語と漢語の人称代名詞の対応』, 『東北アジア研究』 7, pp.1-32.

河野六郎 (1947) 「朝鮮語ノ羅馬字轉寫案」, 『Tôyôgo Kenkyû』 2 ; (1979) 『河野六郎著作集』 第 1 卷, pp.96-97. 東京: 平凡社.

佐藤晴彦 (2003) 「栗林均氏の批判に答える一氏の『元朝秘史』におけるモン

「ゴル語と漢語の人称代名詞の対応」をめぐって一, 『開篇』22, pp.137-143.  
竹越孝 (2009) 「近代以前の外国人はどのように中国語を学んだか—李氏朝鮮時代の中国語教科書から—」, 『現代中国への道案内Ⅱ』, pp.34-58. 東京: 白帝社.

< 中文 >

李泰洙 2003. 《《老乞大》四种版本语言研究》, 北京: 语言出版社.

遠藤雅裕 2005. 《《老乞大》四種版本裡所見的人稱代詞系統以及複數語尾》, 《韓國的中國語言學資料研究》, 首爾: 學古房.

< 韓文 >

亞細亞文化社 1980. 『原本老乞大諺解 (全)』, 國語國文學資料叢書, 서울: 亞細亞文化社.

奎章閣 2003a. 『老乞大・老乞大諺解』奎章閣資料叢書・語學篇 1, 서울: 서울大學校奎章閣.

奎章閣 2003b. 『老乞大新釋・重刊老乞大・重刊老乞大諺解』奎章閣資料叢書・語學篇 2, 서울: 서울大學校奎章閣.

慶北大學校 2000. 『元代漢語本《老乞大》』慶北大學校出版部古典叢書 9, 慶州: 慶北大學校出版部.